

継続という真実

黒田インターナショナル

黒田 毅

どのような現実においても計画と行動において必ず実現できるのである。一つずつの積み重ねは、どのような現実も可能とするからである。

そのため企業や国家は、計画と行動において夢や理想を現実化できるのである。制限性は言い訳であるということは真実で有り、岩を砕く信念は、全ての達成を約束するのである。

理想を持つことはそれに進むことなのである。行動はその全てが現実を与えるのである。そのため計画は、現実化を必ず約束するのである。

そのため決定は、為政者が有し、それは国家と未来を与えるのである。

全てが可能であることは真実である。可能性は全ての瞬間と現実において存在するのである。

決意は、未来への指針である。この強い決意は、場を与え、現実の収束を可能とする。

継続において、それを行う続けることは、目標に進むことなのである。

広い見識は、正しい判断を可能とし、理想という現実を生むことができるのである。

どのようなことでも可能であることは、理解と行動においてそれを実現することなのである。

それらは挑戦や夢を与えることができる。夢を得ることは、努力や行動の結果なのである。